

の目的地に選んだ。やはり、ほとんどの人が初訪問となった。

子どもの参加が多かったので、仙台のビール工場見学は良い社会学習の場となり、またお母さんたちも、熱心にガイドの説明を聞き、感心しきり。日本語の説明もよく理解できたようだ。見学後は、お楽しみのビールとソフトドリンクの試飲。プロのマイスターが注ぐ出来たての生ビールと、迷うぐらいのソフトドリンクの種類の多さに、参加者の笑顔がはじけた。

いい気分になりながら、芸術の秋を堪能するために、宮城県美術館へ。ちょうど、農民や貧しい人びとの暮らしを、その美しい自然の風景と描く

「落ち穂拾い」で有名なミレー展を開催しており、ゆっくりと芸術の世界を散策した。

帰りの車中では、「家族みんなであそべてよかった」「ビール缶のふたをしめる機械のデモンストラーションに驚いた」「先生（日本語サポーター）と一緒に遊べて楽しかった」との感想。次は一泊旅行、遊園地、北東北や北海道に行きたいなど、参加者の夢がふくらむ。

育児、仕事に毎日がんばっている移住女性、彼女たちを支える家族の皆さんと、ひととき楽しい時間をもつことができた。

● EIWAN 事務局

編集後記

◆この間、岩手・宮城・福島の前被災地で活動している NPO の報告会に参加していると、どの NPO も、最初の緊急支援から中長期支援への転換を図るべく悪戦苦闘している様子が見えがえる。私たち EIWAN も、例外ではない◆事務局長の M さんが先月、東京の教会関係者に招かれて報告をした。EIWAN が取り組んでいるプログラムは 9 項目になるが、その一つ一つを要約して説明するだけでも、1 時間を要する。つまり、EIWAN がいま取り組んでいる、さらに、これから取り組もうとしているプログラムは、

増えている一方なのである◆言い換えると、私たちが中長期活動へと転換しようと思っても、早急に取り組まなければならない課題が次から次へと出てきて、活動領域も活動地域も広がってしまう。それを支える経済的基盤も、それを担う人的資源も、乏しいのかかわらず、である◆このジレンマを解決することは、とても不可能である。それでも私たちは、2015 年、福島の移住女性たちと一緒に、さまざまなことにチャレンジしていくことにしたい。

● 信行

活動スペース EIWAN

JR 福島駅西口（新幹線口）正面から、けやき並木の美しい高湯街道まっすぐ西に進み、徒歩約 7 分。

<福島事務所>

〒 960-8055 福島市野田町 2-3-2 神野ビル 3 F 東
電話：080-8215-1556 メールアドレス：eiwan311@gmail.com
facebook ページ「EIWAN」もあります HP <http://gaikikyo.jp/shinsai/eiwan/>

<東京事務所>

〒 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 日本キリスト教会館 52 号 外キ協内
(電話 03-3203-7575 / Fax 03-3202-4977)



福島移住女性支援ネットワーク (EIWAN)

Empowerment of Immigrant Women Affiliated Network

◆発行◆ 2014 年 9 月 11 日（隔月刊）

第4号

●ふくしまの課題●

放射線計測と放射能アンケートを始めました

EIWAN が福島で活動している限り、放射能汚染の問題は避けて通れない。外国にルーツをもつ女性（移住女性）とその家族も、同じ状況に置かれている。

しかし、移住女性、とくにシングルマザーの世帯は、日々の仕事と生活で精一杯で、目にも見えず匂わない放射能汚染に心をくたく余裕はない。また、放射能関連の情報は日本語でもたいへん難解であることから、日本語の読み書きに課題のある移住女性には、なおさら正確な、そして「今」の情報を得られないのが現状である。

それでも、あえて彼女たちに放射能汚染や低線量被曝を話題にすると、みな一様に、漠然とした不安を口にする。現状を平気、安全だと思っている人はいない。

EIWAN は、放射線測定器を海外キリスト教会団体の助成金で 10 月に購入した。それに先立ち 7 月から、同じ測定器を借りて、移住女性に呼びかけ、希望者の家とその周辺の計測を実施している。

今まで福島市と白河市で 5 家族の住居周辺を計測したが、全体的に屋内は 0.07～0.1 μ Sv/h で、福島県としては特に高い数値ではなかった。

しかし、庭木、植木、排水路、駐車場、茂みなどは 0.7～2.82 μ Sv/h の数値が見られた。とくに家から道路を一本隔てた側溝は、草取りや子どもが歩くことも考えられる。草取りは素手や軍手

ではなく、ナイロン製の手袋を着用し、抜いた草や使用後の手袋はそのまま裏返してビニール袋に入れ、屋内に持ち込まないで捨てるように助言した。

また、屋内の寝室が 0.1 μ Sv/h あった家庭は、日々のことであるので、できればより低い線量の部屋を寝室にすることを提案した。

総じて、屋内や除染された敷地内はあまり問題ないが、隣接する道路、植え込み、排水路などの放射線量は決して一定ではなく、ホットスポットと呼ばれる高線量箇所が点在する。こまめに放射線量を測り、ホットスポットに近づかない、不用意に歩いたり、植物や土などに触らないなど、助言が今後も必要である。

また同時に、「放射能」に関するアンケートも始めた。福島第一原発事故当初は、どこにいて何をしていたのか？ その後一時的に避難したのか、しなかったのか？ 日々の生活で気になることはあるのか？——など、聞き取り型のアンケートである。

日本語能力の課題や、すでに忘れていくことも多く、アンケート調査はなかなか進まないが、彼女たちのその時の動きを記録にとどめておくことは、今後、何かの役に立つのではないかと思いつつ、作業を進めている。

●前田圭子（EIWAN 事務局長）

「しあわせナビ」

人生の課題に向き合い、解決に導く能力を身につけよう

9月20日、地域の人びとと移住女性を対象にした講座「しあわせナビ」を、活動スペースEIWANで開催した。講師は、HEALホリスティック教育実践研究所所長の金香百合さんで、参加体験型学習による学びのファシリテーターとして全国各地で活躍中。金さんは、とくに一人一人の自尊感情（セルフエスティーム）が大切だ、と訴えて活動している。

金さんは、参加者が抱えている課題や、友人知人から相談されている話をていねいに聞き、内容をその場で紙に系統立てて書き上げ、原因、構造や関係をまとめていった。課題を視覚化し、ま

めていくことで、気がかりなことの本质を見だし、カウンセリング的な内容と、社会的なサービスの利用の希望や、交渉の方法などを一緒に検討していく……。

今回の参加者は地域の日本人女性のみであったが、今度、移住女性から相談を受けたとき、課題の整理の仕方や、同行支援時にあらかじめ必要な情報とその収集方法、そして相手とどう向き合うかなど、非常に重要なノウハウを学んだ講座であった。

● EIWAN 事務局

たった半日だけど、秋のリフレッシュ

バーベキュー in 須賀川



←食事の前のミニ運動会

9月21日、須賀川の中国移住女性コミュニティ、つばさが主催する「2014年国際交流・秋のバーベキュー」に参加した。

朝、須賀川駅から車で岩瀬公民館へ。そこからさらに北上し、「熊に注意」と看板に書かれている大滝川公園へ。

総勢45人、そのうち「携帯ゲーム持ち込み禁止」

を課せられた子どもは15人、日本人のお父さんは6人、祖父母2組と、文字通り家族総出の行楽行事となる。

天候に恵まれる中、最初はミニ運動会で、笑いに包まれる。賞品として、子どもにはお菓子、大人にはタオルセットが用意されていた。

いよいよバーベキュー。お父さんたちが「炭

起こし」から「焼き」まで、かいがいしく働く。その間に私は、9月7日の福島フォーラムに参加したお母さんたちと子どもたちに感想を聞く。ほとんどが「とても良かった」という感想だったが、「須賀川でも映画『HAFU』を上映して、みんなに観てもらいたい」とも言う。

各家庭で調達した野菜と鶏肉、そしてEIWAN提供の格安牛肉などを食べた後、子どもたちは林の中で遊び、大人たちは炭火の前で談笑。話題が、ちょうど思春期を迎えた息子や娘たちとの「対話不能」の話に及ぶと、父親たちは日本語で、母親たちは中国語でグチる。なかなか結論が見出さない話から、「今度はオヤジ会をやろう」という提案が出たり、仙台やいわきの継承語教室との合同文化祭をやりようという話で、最後は盛り上がった。



月2回の継承語教室のあとの食事会をはじめ、夏の子どもキャンプ、秋のバーベキュー大会な

どのイベントごとに、「つばさ」では順番に担当者を決めて、買い出しから準備すべてを担うようにしている。この3年間の経験から、このような運営方法をとるようになったという。

今回、20代の若いカップル2組が初参加した。結婚のいきさつを尋ねると、いずれも、朝ドラに出てくるような、ほのほのとしたエピソードであった。若いカップルにとって、「つばさ」の中心メンバーである40代のお姉さんたちは、頼もしい存在であるに違いない、と思う。

今年3月末現在、須賀川市に住む外国人は245人（そのうち女性は154人）。国籍別では、中国、フィリピン、韓国・朝鮮……となる。今回のバーベキューは、フィリピン人や韓国人にも呼びかけたが、参加はなかったという。これは今後の課題かもしれない。

●佐藤信行（EIWAN 代表）



たった一日だけど、秋のリフレッシュ

バスツアー in 仙台



春の日光バスツアーに続き、今年2回目となるリフレッシュ・バスツアーを11月9日に実施した。参加者は、白河と福島の日本語サロン学習者（フィリピン移住女性）とその家族、友人、そしてEIWAN運営委員とボランティアの皆さん総勢34人。



今回は嬉しいことに家族での参加が多く、0歳児から幼児、小学生、中学生、高校生からおとなまで、全世代が揃った。

工場見学は予約が必要のため、なかなか行くことができない。また、宮城県美術館は仙台駅から遠いため訪れる機会が少ないだろうと思い、今回